

和紙

特集2

古くから日本でつくられてきた和紙。全国で製造されていて、原料や産地ごとに、さまざまな質感を楽しめるのが魅力です。

取材・文／Office彩蔵 撮影／長谷川朗

主な原料

和紙の原料として一般的なのは、日本に古くからある植物たちです。現在、主に用いられているのは、楮、三桠、雁皮の3種です。



こうぞ
楮

クワ科の落葉低木。蒸して皮をむき、主に皮の部分を用いる。繊維が太く長くて強い。多くの和紙産地で使われている。



みつまた
三桠

ジンチョウゲ科の多年生落葉低木。枝が3つに分かれていることが名前の由来。透かしを入れる精巧な印刷にも適し、紙幣などにも使用。



がんび
雁皮

ジンチョウゲ科の落葉低木。生育が遅いため、多くは野生のものを採取し、利用している。繊維は細く短くて、美しい光沢がある。

写真下から、楮、三桠、雁皮でつくられた和紙。楮は薄くて透明感があり、紙質が丈夫、三桠は温かみのある風合い、雁皮は艶がある。



❖ 主な和紙の産地と特徴

えっちゅう 越中和紙	富山県	強さが魅力の紙。障子紙をはじめ100種以上におよぶ染紙など、多品種を生産。
えちぜん 越前和紙	福井県	強靱さに加え、温かみを感じる生成色が特徴。柔らかな風合いと艶のある紙。
うちやまがみ 内山紙	長野県	日焼けせず長もちするため、障子紙や長期保存するための紙として優れている。
みの 美濃和紙	岐阜県	薄くて布のように丈夫。本美濃紙、美術工芸紙、箔合紙などの製品がある。
いんしゅう 因州和紙	鳥取県	品質の高さには定評があり、書道、墨絵に適した画仙紙や半紙が評判。
せきしゅう 石州和紙	島根県	障子紙や石州半紙が有名で、その他、封筒、便箋、はがき、名刺などにも使用。
あわ 阿波和紙	徳島県	水に強くて破れにくく、独特な美しさ。近年では工芸品などもつくられている。
おおぞ 大洲和紙	愛媛県	薄くて強く、書道用紙は全国の書家に愛用される。障子紙やたこ紙なども有名。
土佐和紙	高知県	書道・手工芸用紙、障子紙、和紙加工品など品種の豊富さと優れた品質が特徴。

※すべて経済産業大臣指定伝統的工芸品（平成29年12月現在）。

今も手漉きでつくられる 日本伝統の紙

紙が日本に伝わったのは飛鳥時代と推測されており、平安時代には美しい紙がつくられるようになったとされています。和紙とは日本で古くからつくられてきた紙のことですが、和紙といわれるようになったのは、明治時代。このころ欧米製の紙が日本に伝わってきた、洋紙と呼ばれました。これに対して日本製の紙のことを和紙というようになったのです。

和紙の主な原料は、楮、三桠、雁皮などの植物。今でもその多くは機械ではなく、伝統的な手漉き技法で製造されています。

産地は全国各地にあり、それぞれの伝統技法が受け継がれてきています。その中の一つ、富山県の越中和紙を例に製造方法を紹介します。

手工芸やインテリアとしても利用

原料となる楮の収穫は12月ごろです。収穫した楮は切りそろえて蒸し、皮をむきます。むいた皮をさらにきれいにし、天日で乾燥させてから水に浸して柔らかくします。その後、積もった雪の上に皮を寝かせる「雪さらし」を行います。この雪さらしで100年耐える強い和紙になるといわれています。

その後、煮てさらに皮をはがし、叩いて繊維を細かくするなど何工程かを経て、紙のもととなる原料になります。それから、紙漉きをし、圧力をかけて脱水。乾燥させれば和紙のできあがりです。

強くて長もちするのが和紙の特徴。特に手漉き和紙は、一枚一枚、風合いが異なるのも魅力です。和紙は、書道やアートなどに用いられるほか、アイデア次第で、さまざまな場面に取り入れることができます。

「最近ではちぎり絵や押し花、小物づくりなど、手工芸に用いる方が多いです。壁掛けやランプシェードといったインテリアに取り入れる方もいらっしやいます」（小津和紙・西本幸宏さん）。

取材協力／和紙専門店 小津和紙
1653年、紙問屋として東京・日本橋に創業以来、和紙の魅力と伝統を伝え続けている老舗。店舗だけでなく史料館や体験工房なども併設。
<http://www.ozuwashi.net/>

日本の伝統文様

日本には古くから親しまれている、数多くの文様があります。ここでは生活用品をはじめ、和紙にも取り入れられている代表的な文様を紹介しします。



せいがい は 波を表現。未来永劫の願いを込めた吉祥文様。



りゅうすい 流しとも呼ぶ。水が流れる様子を表している。



かすみ 霞の様子を図案化。古くから絵画などに使用。



からくさ 植物を表現。日本では風呂敷などでおなじみ。



しっぽう 仏教が由来とされ、円満、調和の吉祥文様。



やがすり 矢羽を絰織で表現。婚礼の縁起物とされている。



いちまつ 歌舞伎の衣装がきっかけでこの名称がついた。



かこ シカの子の背にある斑紋をかたどった文様。



きっこう カメの甲羅のようで、長寿の吉祥文様に利用。



ちどり かわいい形で図案化。波との組み合わせも多い。

和紙の活用や製品

風合いがあり、丈夫で長もちな和紙の特性を活かしたさまざまな製品。その一部をご紹介します。



卒業証書

岐阜県美濃市の牧谷小学校では、児童に1年生から地元の美濃和紙について学ばせている。その集大成として、6年生全員が自分の卒業証書になる美濃和紙づくりをしている。



ペンケース

五箇山和紙の里とデザインユニット minna による「FIVE」では、色鮮やかな製品を販売。自ら楮を育て、手漉きをしている。「ペンケース」(五箇山和紙の里) <http://www.five-gokayama.jp/>



ランプシェード

手漉きの特徴と素材を活かした越前和紙の製品。「手漉き和紙ランプシェード・灯紙美(ともしび) No.1504」(中村紙店 五嶋屋) <http://www.nakamura-marugo.co.jp/>



バッグ

山梨県市川大門の和紙メーカー大直が、和紙漉きの製法でつくった新素材「ナオロン」を使用。「SIWA | 紙和バッグ "round" イエロー」(アシストオン) <https://www.assiston.co.jp/>



クッション

楮を漉き上げ、コンニャクのりを塗布するなど独自に開発した「強製紙」を使った製品。はっ水加工も施す。「和紙クッション デザイン3 エンジ」(桂樹舎) <http://keijusha.com/>



さまざまな柄や色の和紙

柄や色をはじめ、多彩な種類がそろっている和紙。いろいろな技法を使ってつくり上げられていて、見た目も質感も異なります。



吉野大和草木染 小判(奈良県) / 手漉きの楮紙で、よもぎで染めてある。草木染めならではの優しい風合いが特徴。かな書きにおすすめ。



美濃落水紙春雨(岐阜県) / 落水紙とは、漉いた和紙に水を落として模様をつけた紙のこと。これは網の上に紙を置き、水をかけてランダムな模様を表現。



五箇山大段ぼかし染(富山県) / 白から濃い色へとグラデーションになっている紙をぼかしと呼ぶ。ちぎり絵など手工芸に向いている。



柿渋紋り染め(高知県) / 手が透けるくらい薄い紙を手漉きでつくっている工房が手がけた紙。渋柿の青い果実を絞った液で染めてある。



美濃落水笹入紙(岐阜県) / ベースの紙の間に、笹の紙や金箔を入れてつくられている落水紙。透明感があって繊細な仕上がりが。

和紙の漉き方

日本独特の漉き方が「流し漉き」。紙の大きさは漉き桁のサイズで決まりますが、紙の厚さは液体の紙のもとをどれだけくんで揺するかで変わります。全面を均一の厚さにするのは、熟練の技が必要ですが、その製造工程を小津和紙の体験工房で見てください。



和紙づくりには「漉き桁」に簀(す)を使った道具を使う。漉き桁を手で持ち、液体をすくうように動かす。



楮などの原料にトロアオイの粘液を加え、液状になった紙のもとが入っている「漉きぶね」。よく混ぜてから作業をスタート。



体験工房では60℃ほどのプレートを使用。シワができないように、ブラシでプレートに貼り付け、乾燥したらできあがり。



漉き桁に紙の層ができたら、破れないように気をつけながらこれを外す。次に独自の器具で水分をよく吸い取り、乾燥の工程へ。



液体をすくったら、20回ほど手で揺り動かしてから、液体を漉きぶねへ戻すことを数回繰り返す。この工程で繊維が絡み合う。

※小津和紙の「手漉き和紙体験工房」では、1回500円(税込み)でA4判の和紙づくりが体験できる。体験は1名より可。予約優先。